

2018 年度 シラバス

国際教育センター開講

日本語科目

2018 年 3 月 1 日版

【前期】

種別	科目名	レベル	担当者	科目数	曜日 時限	備考
必修	日本語総合(1)Ⅰ	1	世良 時子 渡辺 撰 吉田 結	4	—	開講なし
	漢字・語彙(1)Ⅰ			1	—	
必修	日本語総合(2)Ⅰ	2	行田 悦子	5	月Ⅱ、火Ⅱ、 水Ⅱ、木Ⅱ、 金Ⅱ	
	漢字・語彙(2)Ⅰ			1	火Ⅲ	
必修	日本語総合(3)Ⅰ	3	世良 時子 草木 美智子	3	月Ⅱ 火Ⅱ 金Ⅱ	
	話す(3)Ⅰ		世良 時子	1	木Ⅱ	
	書く(3)Ⅰ		遠藤 樹子	1	水Ⅱ	
	漢字・語彙(3)Ⅰ		片山 智子	1	木Ⅲ	
必修	日本語総合(4)Ⅰ	4	川上 麻理 行田 悦子	3	月Ⅱ 火Ⅱ 金Ⅱ	
	話す(4)Ⅰ		吉田 結	1	木Ⅲ	
	書く(4)Ⅰ		森川 尚子	1	水Ⅱ	
	漢字・語彙(4)Ⅰ		岩佐 靖夫	1	月Ⅲ	
発展	討論・スピーチ(5)Ⅰ	5	片山 智子	1	木Ⅱ	
	新聞・評論を読む(5)Ⅰ		渡辺 撰	1	金Ⅱ	
	アカデミック・ライティング(5)Ⅰ		川上 麻理	1	水Ⅱ	
	発音・聴解(5)Ⅰ		呉 佳穎	1	火Ⅱ	
	日本文学を読む(5)Ⅰ		行田 悦子	1	月Ⅱ	
発展	アカデミック・スキルズA(6)Ⅰ	6	世良 時子	1	月Ⅲ	
	アカデミック・スキルズB(6)Ⅰ		森川 尚子	1	水Ⅲ	
選択	日本語能力試験N1Ⅰ	4以上	川上 麻理	1	金Ⅲ	
	日本語能力試験N2Ⅰ	3以上	遠藤 樹子	1	水Ⅲ	
	多読Ⅰ	2以上	川上 麻理	1	水Ⅳ	
	ロールプレイⅠ	3以上	川上 麻理	1	火Ⅲ	
	ビジネス日本語Ⅰ	5以上	世良 時子	1	月Ⅳ	
	日本事情Ⅰ	4以上	桂 雄二郎	1	火Ⅳ	

【後期】

種別	科目名	レベル	担当者	科目数	曜日 時限	備考
必修	日本語総合(1)Ⅱ	1		4	—	開講なし
	漢字・語彙(1)Ⅱ			1	—	
必修	日本語総合(2)Ⅱ	2	世良 時子 渡辺 撰 吉田 結	5	月Ⅱ、火Ⅱ、 水Ⅱ、木Ⅱ、 金Ⅱ	
	漢字・語彙(2)Ⅱ		行田 悦子	1	火Ⅲ	
必修	日本語総合(3)Ⅱ	3	世良 時子 草木 美智子	3	月Ⅱ 火Ⅱ 金Ⅱ	
	話す(3)Ⅱ		世良 時子	1	木Ⅱ	
	書く(3)Ⅱ		遠藤 樹子	1	水Ⅱ	
	漢字・語彙(3)Ⅱ		片山 智子	1	木Ⅲ	
必修	日本語総合(4)Ⅱ	4	川上 麻理 行田 悦子	3	月Ⅱ 火Ⅱ 金Ⅱ	
	話す(4)Ⅱ		吉田 結	1	木Ⅲ	
	書く(4)Ⅱ		森川 尚子	1	水Ⅱ	
	漢字・語彙(4)Ⅱ		岩佐 靖夫	1	月Ⅲ	
発展	討論・スピーチ(5)Ⅱ	5	片山 智子	1	木Ⅱ	
	新聞・評論を読む(5)Ⅱ		渡辺 撰	1	金Ⅱ	
	アカデミック・ライティング(5)Ⅱ		川上 麻理	1	水Ⅱ	
	発音・聴解(5)Ⅱ		呉 佳穎	1	火Ⅱ	
	日本文学を読む(5)Ⅱ		行田 悦子	1	月Ⅱ	
発展	アカデミック・スキルズA(6)Ⅱ	6	世良 時子	1	月Ⅲ	
	アカデミック・スキルズB(6)Ⅱ		森川 尚子	1	水Ⅲ	
選択	日本語能力試験N1Ⅱ	4以上	川上 麻理	1	金Ⅲ	
	日本語能力試験N2Ⅱ	3以上	遠藤 樹子	1	水Ⅲ	
	多読Ⅱ	2以上	川上 麻理	1	水Ⅳ	
	ロールプレイⅡ	3以上	川上 麻理	1	火Ⅲ	
	ビジネス日本語Ⅱ	5以上	世良 時子	1	月Ⅳ	
	日本事情Ⅱ	4以上	桂 雄二郎	1	火Ⅳ	

科目名	日本語総合（２）Ⅰ				
教員名	世良 時子 ・ 吉田 結 ・ 渡辺 摂				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 初級後半レベルの総合的な日本語					
〔到達目標〕 ・ 初級後半レベルの日本語を勉強して、中級になることを目指す ・ 新しい文型・文法や表現を勉強し、それを理解し、使えるようになる。 ・ 自分について話すことができるようになる。 ・ 他の人と話し合い、考えを伝えあえるようになる。					
〔授業の計画〕 ・ 1 回目の授業のときに、くわしい予定をわたします。 ・ 教科書のそれぞれの課で ① 文型・文法の練習 ②確認・復習 ③本文会話・発表 ④振り返り という順に進めます。 ・ 中間テストと期末テストをします。 ・ 教科書以外にも教材を使うかもしれません。					
〔授業の方法〕 ・ 教科書を使って、それぞれの課の文法や表現を勉強し、使えるように練習します。 ・ 勉強した文法や表現を使って、何かの目的のために、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりする練習をします。 ・					
〔準備学習等の内容〕 授業のときに言います。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、 クラスでのクイズや宿題 30%、 テスト 40%、 参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級前半レベルの学習が終わっていたほうがいいです。					
〔テキスト〕 1 回目のときに言います。					
〔参考書〕なし					

科目名	日本語総合（2）Ⅱ				
教員名	世良 時子 ・ 吉田 結 ・ 渡辺 摂				
単位数		配当年次		開講時期	後期
[テーマ・概要] しよきゆうこうはん そうごうてき 初級後半レベルの総合的な日本語					
[到達目標] しよきゆうこうはん べんきよう ちゅうきゆう めざ ・ 初級後半レベルの日本語を勉強して、中級になることを目指す ぶんけい ぶんぽう ひょうげん りかい ・ 新しい文型・文法や表現を勉強し、それを理解し、使えるようになる。 じぶん はな ・ 自分について話すことができるようになる。 ほか ひと はな あ かんが つた ・ 他の人と話し合い、考えを伝えあえるようになる。					
[授業の計画] ・ 1 回目の授業のときに、くわしい予定をわたします。 きょうかしよ か ・ 教科書のそれぞれの課で ぶんけい ぶんぽう れんしゅう かくにん ふくしゅう ほんぶんかいわ はっぴよう ふ かえ ① 文型・文法の練習 ②確認・復習 ③本文会話・発表 ④振り返り という順に進めます。 ちゅうかん きまつ ・ 中間テストと期末テストをします。 きょうかしよがい きょうざい つか ・ 教科書以外にも教材を使うかもしれません。					
[授業の方法] きょうかしよ つか か ぶんぽう ひょうげん べんきよう つか れんしゅう ・ 教科書を使って、それぞれの課の文法や表現を勉強し、使えるように練習します。 べんきよう ぶんぽう ひょうげん もくてき ・ 勉強した文法や表現を使って、何かの目的のために、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりする練習をします。 ・					
[準備学習等の内容] じゅぎよう い 授業のときに言います。					
[成績評価の方法] しゅっせき しゅくだい さんかど 出席 20%、 クラスでのクイズや宿題 30%、 テスト 40%、 参加度 10%					
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] しよきゆうぜんはん がくしゅう お 初級前半レベルの学習が終わっていたほうがいいです。					
[テキスト] 1 回目のときに言います。					
[参考書] なし					

科目名	漢字・語彙 (2) I Kanji & Vocabulary (2) I				
教員名	行田悦子 (こうだ えつこ)				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ・ 初級レベルの漢字とことばを楽しく勉強します。 ・ 日本語能力試験 N4 レベルの漢字 (300 字ぐらい)・ことば (1500 語ぐらい) ・ 日本語能力試験の勉強をするクラスではありません。					
〔到達目標〕 ・ 日本語総合のテキストの漢字・ことばを覚えて、読んだり書いたりできる。 ・ 毎日の生活で見る漢字・ことばの意味がわかって、楽しく生活できる。 ・ インターネットやスマホなどの辞書を使って、勉強することができる。 ・ 自分に合った漢字やことばの勉強のしかたを身につける。					
〔授業の計画〕 第1回 ガイダンス、レベルチェック 漢字・ことば (1) 第2～6回 小テスト、漢字・ことば (2)～(6) 第7回 中間試験 (Mid-term exam) ポートフォリオ中間報告 第8～13回 小テスト、漢字・ことば (7)～(12) 第14回 期末試験 (Final Exam) 第15回 フィードバック ポートフォリオ期末報告まとめ					
〔授業の方法〕 ・ 講義 (lecture) + スモールステップで自分のペースで学ぶセルフスタディスタイル ・ 復習クイズ → 今日の漢字・ことば → 読む・書く・話す → ポートフォリオチェック ・ ペアワーク、グループワークなどの活動 (activity) もします。					
〔準備学習等の内容〕 毎回、小テストをします。勉強した漢字・ことばを復習してください。					
〔成績評価の方法〕 出席 30% (小テスト含む)、中間、期末試験 25% × 2、学習日誌/ポートフォリオ 20% を総合的に判断する。					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ひらがな・カタカナをマスターし、漢字が 100 字ぐらいわかること					
〔テキスト〕 ハンドアウト 日本語総合の教科書					
〔参考書〕 初回に紹介。 辞書・電子辞書、筆順アプリなど					

科目名	漢字・語彙 (2) II Kanji & Vocabulary (2) II				
教員名	行田悦子 (こうだ えつこ)				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ・ 初級レベルの漢字とことばを楽しく勉強します。 ・ 日本語能力試験 N4 レベルの漢字 (300 字ぐらい) ・ ことば (1500 語ぐらい) ・ 日本語能力試験の勉強をするクラスではありません。					
〔到達目標〕 ・ 日本語総合のテキストの漢字・ことばを覚えて、読んだり書いたりできる。 ・ 毎日の生活で見る漢字・ことばの意味がわかって、楽しく生活できる。 ・ インターネットやスマホなどの辞書を使って、勉強することができる。 ・ 自分に合った漢字やことばの勉強のしかたを身につける。					
〔授業の計画〕 第1回 ガイダンス、レベルチェック 漢字・ことば (1) 第2～6回 小テスト、漢字・ことば (2) ～ (6) 第7回 中間試験 (Mid-term exam) ポートフォリオ中間報告 第8～13回 小テスト、漢字・ことば (7) ～ (12) 第14回 期末試験 (Final Exam) 第15回 フィードバック ポートフォリオ期末報告まとめ					
〔授業の方法〕 ・ 講義 (lecture) + スモールステップで自分のペースで学ぶセルフスタディースタイル ・ 復習クイズ → 今日の漢字・ことば → 読む・書く・話す → ポートフォリオチェック ・ ペアワーク、グループワークなどの活動 (activity) もします。					
〔準備学習等の内容〕 毎回、小テストをします。勉強した漢字・ことばを復習してください。					
〔成績評価の方法〕 出席 30% (小テスト含む)、中間、期末試験 25% × 2、学習日誌/ポートフォリオ 20% を総合的に判断する。					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ひらがな・カタカナをマスターし、漢字が 100 字ぐらいわかること					
〔テキスト〕 ハンドアウト 日本語総合の教科書					
〔参考書〕 初回に紹介。 辞書・電子辞書、筆順アプリなど					

科目名	日本語総合（3）Ⅰ				
教員名	草木 美智子 ・ 世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 中級レベルの総合的な日本語					
〔到達目標〕 ・読み書きを中心に総合的な日本語能力を上げる。 ・新しい文型・文法や表現を勉強し、それを理解し、使えるようになる。 ・まとまった長さの文章を読み、内容や構成を理解し、それをまとめたり、それについて意見を言ったりできるようになる。 ・習った内容について、聞いて理解できるようになる。					
〔授業の計画〕 ・1回目の授業のときに、くわしい予定をわたします。 ・教科書のそれぞれの課で ① 文型・文法の練習 ②語彙学習 ③本文読解 ④聴解 という順で進めます。 ・中間テストと期末テストをします。 ・教科書以外にも教材を使うかもしれません。					
〔授業の方法〕 ・教科書を使って、それぞれの課の文法や表現を学び、使えるように練習します。 ・それぞれの課のことは勉強します。 ・それぞれの課の文章を読み、内容を理解します。また、その文章の構成を考えたり、段落ごとにまとめたりします。そして、その内容について、説明したり、話し合ったりします。 ・その課の内容に関係がある話を聞いて、質問に答えたり、話し合ったりします。					
〔準備学習等の内容〕 それぞれの課の文型練習・語彙学習、読解シート					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、クイズや課題 30%、テスト 40%、参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習が終わっていたほうがいいです。					
〔テキスト〕 1回目のときに言います。					
〔参考書〕なし					

科目名	日本語総合（３）Ⅱ				
教員名	草木 美智子 ・ 世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 中級レベルの総合的な日本語					
〔到達目標〕 ・読み書きを中心に総合的な日本語能力を上げる。 ・新しい文型・文法や表現を勉強し、それを理解し、使えるようになる。 ・まとまった長さの文章を読み、内容や構成を理解し、それをまとめたり、それについて意見を言ったりできるようになる。 ・習った内容について、聞いて理解できるようになる。					
〔授業の計画〕 ・1回目の授業のときに、くわしい予定をわたします。 ・教科書のそれぞれの課で ① 文型・文法の練習 ②語彙学習 ③本文読解 ④聴解 という順で進めます。 ・中間テストと期末テストをします。 ・教科書以外にも教材を使うかもしれません。					
〔授業の方法〕 ・教科書を使って、それぞれの課の文法や表現を学び、使えるように練習します。 ・それぞれの課のことは勉強します。 ・それぞれの課の文章を読み、内容を理解します。また、その文章の構成を考えたり、段落ごとにまとめたりします。そして、その内容について、説明したり、話し合ったりします。 ・その課の内容に関係がある話を聞いて、質問に答えたり、話し合ったりします。					
〔準備学習等の内容〕 それぞれの課の文型練習・語彙学習、読解シート					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、クイズや課題 30%、テスト 40%、参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習が終わっていたほうがいいです。					
〔テキスト〕 1回目のときに言います。					
〔参考書〕なし					

科目名	話す（３）Ⅰ				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 様々な場面でのコミュニケーション、口頭表現能力、伝えるための発音・話し方					
〔到達目標〕 ・日常生活の中のさまざまな場面に必要な表現を知り、使えるようになること ・理解した表現を、必要な場面で伝わるように話すことができること ・会話の流れ（ディスコース）に気を配り、よりよいコミュニケーションができるようになること ・自分の言いたいことをまとめた長さで表現できるようになること ・聞き手のことを考えて、話せるようになること					
〔授業の計画〕 授業の進み方や参加者の様子によって、変える可能性があります。 第１回 オリエンテーション、敬語表現とカジュアル表現 第２～４回 場面に合わせた会話(1)～(3)、スピーチ１（ものを紹介する）(1)～(3) 第５～７回 場面に合わせた会話(4)～(6)、スピーチ２（経験を紹介する）(1)～(3) 第８～９回 場面に合わせた会話(7)～(8)、文化を紹介する発表の準備(1)～(3) 第１０～１１回 ポスターを使った文化紹介の発表（ポスターセッション） 第１２～１４回 場面に合わせた会話(9)～(11)、意見を伝える発表（1）～(3) 第１５回 会話テスト、振り返り					
〔授業の方法〕 ・日常のさまざまな場面に必要な表現を、会話の形式で練習します。また、会話の音声を聞きながら、シャドーイングもします。 ・まとまった話をするときの談話構成や会話の機能を勉強し、練習します。 ・いろいろな話題で短いスピーチを作り、発表します。また、それについての質問にも答えます。 ・実際に行ったスピーチなどを振り返り、どのような伝え方がいいか、考えます。 ・簡単なプレゼンテーションをするために、資料を準備し、プレゼンテーションの話し方を練習してから発表します。					
〔準備学習等の内容〕 必要なときに、連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、参加度 20%、スピーチ１ 10% スピーチ２ 10%、発表 15%、 ポスター発表 15% 会話テスト 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級の日本語学習がある程度進んでいることが望ましい。					
〔テキスト〕 小林ひとみ『初級から始めよう にほんご会話トレーニング』アスク					
〔参考書〕なし					

科目名	話す（３）Ⅱ				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 様々な場面でのコミュニケーション、口頭表現能力、伝えるための発音・話し方					
〔到達目標〕 ・日常生活の中のさまざまな場面で必要な表現を知り、使えるようになること ・理解した表現を、必要な場面で伝わるように話すことができること ・会話の流れ（ディスコース）に気を配り、よりよいコミュニケーションができるようになること ・自分の言いたいことをまとめた長さで表現できるようになること ・聞き手のことを考えて、話せるようになること					
〔授業の計画〕 授業の進み方や参加者の様子によって、変える可能性があります。 第１回 オリエンテーション、敬語表現とカジュアル表現 第２～４回 場面に合わせた会話(1)～(3)、スピーチ１（ものを紹介する）(1)～(3) 第５～７回 場面に合わせた会話(4)～(6)、スピーチ２（経験を紹介する）(1)～(3) 第８～９回 場面に合わせた会話(7)～(8)、文化を紹介する発表の準備(1)～(3) 第１０～１１回 ポスターを使った文化紹介の発表（ポスターセッション） 第１２～１４回 場面に合わせた会話(9)～(11)、意見を伝える発表（1）～(3) 第１５回 会話テスト、振り返り					
〔授業の方法〕 ・日常のさまざまな場面で必要な表現を、会話の形式で練習します。また、会話の音声を聞きながら、シャドーイングもします。 ・まとめた話をするときの談話構成や会話の機能を勉強し、練習します。 ・いろいろな話題で短いスピーチを作り、発表します。また、それについての質問にも答えます。 ・実際に行ったスピーチなどを振り返り、どのような伝え方がいいか、考えます。 ・簡単なプレゼンテーションをするために、資料を準備し、プレゼンテーションの話し方を練習してから発表します。					
〔準備学習等の内容〕 必要なときに、連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、参加度 20%、スピーチ１ 10% スピーチ２ 10%、発表 15%、 ポスター発表 15% 会話テスト 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級の日本語学習がある程度進んでいることが望ましい。					
〔テキスト〕 小林ひとみ『初級から始めよう にほんご会話トレーニング』アスク					
〔参考書〕なし					

科目名	書く (3) I			
教員名	遠藤 樹子 (えんどう しげこ)			
単位数		配当年次		開講時期 前期
〔テーマ・概要〕 今までに、あるいは新しく習った語彙・表現・文法を使って、400～800 字程度のまとまりのある文章を書く練習をする。				
〔到達目標〕 ・ 作文を書く上での基本的なルールを身につける。 ・ 中級レベルの語彙・表現・文法を使った、間違いの少ない文が書けるようになる。 ・ 構成を意識した、読む人がわかりやすい文章が書けるようになる。 ・ 日常的によく使うメール文が書けるようになる。				
〔授業の計画〕 第 1 回 基本的なルール、自己紹介文を書く 第 2～3 回 メール文を書く 第 4～6 回 身近な話題について書く 第 7 回 中間テスト 第 8～10 回 説明文を書く 第 11～13 回 意見文を書く 第 14 回 期末テスト 第 15 回 フィードバック、総まとめ				
〔授業の方法〕 ・ 作文のトピックについて、クラス全体で話し合いをする。 ・ 作文を書くために必要な語彙・表現、文章の構成を学んだ後、作文を書く。 ・ 教師やクラスメートからフィードバックを受けて、作文を書き直す。				
〔準備学習等の内容〕 作文は基本的に宿題として書いてくることが求められる。				
〔成績評価の方法〕 出席 20%、中間・期末テスト 30%、 課題の提出 30%、 授業への参加度 20%				
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.				
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習を終えていることが望ましい。				
〔テキスト〕 ハンドアウト				
〔参考書〕 なし				

科目名	書く（3）Ⅱ				
教員名	遠藤 樹子（えんどう しげこ）				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 今までに、あるいは新しく習った語彙・表現・文法を使って、400～800 字程度のまとまりのある文章を書く練習をする。					
〔到達目標〕 ・ 作文を書く上での基本的なルールを身につける。 ・ 中級レベルの語彙・表現・文法を使った、間違いの少ない文が書けるようになる。 ・ 構成を意識した、読む人がわかりやすい文章が書けるようになる。 ・ 日常的によく使うメール文が書けるようになる。					
〔授業の計画〕 第1回 基本的なルール、自己紹介文を書く 第2～3回 メール文を書く 第4～6回 身近な話題について書く 第7回 中間テスト 第8～10回 説明文を書く 第11～13回 意見文を書く 第14回 期末テスト 第15回 フィードバック、総まとめ					
〔授業の方法〕 ・ 作文のトピックについて、クラス全体で話し合いをする。 ・ 作文を書くために必要な語彙・表現、文章の構成を学んだ後、作文を書く。 ・ 教師やクラスメートからフィードバックを受けた後、作文を書き直す。					
〔準備学習等の内容〕 作文は基本的に宿題として書いてくることが求められる。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、中間・期末テスト 30%、課題の提出 30%、授業への参加度 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習を終えていることが望ましい。					
〔テキスト〕 ハンドアウト					
〔参考書〕 なし					

科目名	漢字・語彙 (3) I				
教員名	片山 智子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ・日本語中級の学生が必要な漢字・語彙を楽しく学ぶ ・学んだ語彙の正しい使い方を身につける。 *日本語能力試験のためのクラスではありません。					
〔到達目標〕 ・テーマや場面に合った漢字語彙・カタカナ語彙・熟語等が理解でき、使い分けられるようになる。 ・日本での生活に必要な漢字や語彙を理解し、生活がスムーズになる。 ・自分に合った語彙学習の方法を見つける。					
〔授業の計画〕 受講生の人数やニーズに合わせて、変更する可能性がある。 第1回 オリエンテーション 漢字語彙の仕組み 場面による語彙の違いについて 第2～5回 毎回のテーマに関する新しい漢字・語彙、復習クイズ 第6回 中間試験 自律学習テーマ発表 第7回～13回 毎回のテーマに関する新しい漢字・語彙、復習クイズ、課題の経過報告 第14回 期末試験 第15回 自律学習発表、振り返り					
〔授業の方法〕 ・毎回、一つのテーマに沿った新しい漢字・語彙を学ぶ。 ・ペアやグループで、学んだ語彙を使うタスク、文脈から推測するタスクなどもおこなう。 ・自分で自分に必要なテーマを決め、自律学習をおこなう					
〔準備学習等の内容〕 ・各回のテーマで扱う漢字は予習・復習をしてください。 ・毎日、30分ぐらい読む・書く練習をすること。					
〔成績評価の方法〕 出席・課題 25%・復習クイズ 20%・試験 20%×2回 自律学習(ポートフォリオ・発表・振り返り)15%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 漢字 300字ぐらい					
〔テキスト〕 『留学生のための漢字の教科書中級 700』佐藤尚子 図書刊行会					
〔参考書〕 授業内で紹介する。					

科目名	漢字・語彙 (3) II				
教員名	片山 智子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ・日本語中級の学生が必要な漢字・語彙を楽しく学ぶ ・学んだ語彙の正しい使い方を身につける。 *日本語能力試験のためのクラスではありません。					
〔到達目標〕 ・テーマや場面に合った漢字語彙・カタカナ語彙・熟語等が理解でき、使い分けられるようになる。 ・日本での生活に必要な漢字や語彙を理解し、生活がスムーズになる。 ・自分に合った語彙学習の方法を見つける。					
〔授業の計画〕 受講生の人数やニーズに合わせて、変更する可能性がある。 第1回 オリエンテーション 漢字語彙の仕組み 場面による語彙の違いについて 第2～5回 毎回のテーマに関する新しい漢字・語彙、復習クイズ 第6回 中間試験 自律学習テーマ発表 第7回～13回 毎回のテーマに関する新しい漢字・語彙、復習クイズ、課題の経過報告 第14回 期末試験 第15回 自律学習発表、振り返り					
〔授業の方法〕 ・毎回、一つのテーマに沿った新しい漢字・語彙を学ぶ。 ・ペアやグループで、学んだ語彙を使うタスク、文脈から推測するタスクなどもおこなう。 ・自分で自分に必要なテーマを決め、自律学習をおこなう					
〔準備学習等の内容〕 ・各回のテーマで扱う漢字は予習・復習をしてください。 ・毎日、30分ぐらい読む・書く練習をすること。					
〔成績評価の方法〕 出席・課題 25%・復習クイズ 20%・試験 20%×2回 自律学習(ポートフォリオ・発表・振り返り)15%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 漢字 300字ぐらい					
〔テキスト〕 『留学生のための漢字の教科書中級 700』佐藤尚子 図書刊行会					
〔参考書〕 授業内で紹介する。					

科目名	日本語総合（４）Ⅰ				
教員名	川上 麻理（かわかみ まり）、行田 悦子（こうだ えつこ）				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 中級後半レベルの総合的な日本語の力（読む、書く、聞く、話す）を身につける。					
〔到達目標〕 ・新しい文法や表現や漢字を学び、使えるようになる。 ・さまざまなトピック、スタイルの読み物が読めるようになる。 ・自然な速さの日本語を聞いて、必要な情報が取れるようになる。 ・読んだり聞いたりしたものについて、自分の考えや感想を適切な表現を使って話したり書いたりできるようになる。					
〔授業の計画〕 教科書の１課ごとに文法、ことば、読解、ディスカッション、聴解の流れで授業を進め、中間テストと期末テストを行う。初回の授業でくわしいスケジュールを配布する予定。					
〔授業の方法〕 （１）本文に出てくる文法、ことば、漢字を学習する。 （２）文章の構成を意識しながら、本文を読む。 （３）本文の内容を理解し、その内容について説明したりまとめたりする。 （４）本文のテーマに関する話題について、クラスメートと話し合う。 （５）教科書以外の文章を読んだりＣＤを聴いたりビデオを見たりして、大切な情報を速くつかむ練習をする。					
〔準備学習等の内容〕 ・予習として、本文を自分で読んでくることが求められる。 ・漢字クイズ、文法・ことばクイズのための準備が必要となる。 ・文法と読解のワークシートを提出する。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、授業への参加度 10%、課題・クイズ 30%、試験 40%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級前半の学習を終えていることが求められる。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。					
〔参考書〕 なし					

科目名	日本語総合（４）Ⅱ				
教員名	川上 麻理（かわかみ まり）、行田 悦子（こうだ えつこ）				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 中級後半レベルの総合的な日本語の力（読む、書く、聞く、話す）を身につける。					
〔到達目標〕 ・新しい文法や表現や漢字を学び、使えるようになる。 ・さまざまなトピック、スタイルの読み物が読めるようになる。 ・自然な速さの日本語を聞いて、必要な情報が取れるようになる。 ・読んだり聞いたりしたものについて、自分の考えや感想を適切な表現を使って話したり書いたりできるようになる。					
〔授業の計画〕 教科書の１課ごとに文法、ことば、読解、ディスカッション、聴解の流れで授業を進め、中間試験と期末試験を行う。初回の授業でくわしいスケジュールを配布する予定。					
〔授業の方法〕 （１）本文に出てくる文法、ことば、漢字を学習する。 （２）文章の構成を意識しながら、本文を読む。 （３）本文の内容を理解し、その内容について説明したりまとめたりする。 （４）本文のテーマに関する話題について、クラスメートと話し合う。 （５）教科書以外の文章を読んだりＣＤを聴いたりビデオを見たりして、大切な情報を速くつかむ練習をする。					
〔準備学習等の内容〕 ・予習として、本文などを自分で読んでくることが求められる。 ・漢字クイズ、文法・ことばクイズのための準備が必要となる。 ・文法と読解ワークシートを提出する。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、授業への参加度 10%、課題・クイズ 30%、試験 40%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級前半の学習を終えていることが求められる。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。					
〔参考書〕 なし					

科目名	話す（４）Ⅰ				
教員名	吉田 結				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 日本語でのコミュニケーション能力、口頭表現能力、伝えるための発音・話し方を身につける。					
〔到達目標〕 ・今まで勉強した日本語を使って、自分の考え、言いたいことが伝えられるようになる。 ・聞き手のことを考えて、口頭表現が行えるようになる。 ・会話の表現を意識し、円滑なコミュニケーションができるようになる。					
〔授業の計画〕 クラスの様子に合わせて、変わる可能性があります。 第１回 オリエンテーション、スピーチ「自己紹介」 第２・３回 スピーチ（写真）写真を使って、場所・もの・出来事を紹介 第４～６回 スピーチ（比較）日本の国、私の国について 第７～１０回 発表（インタビュー） 第１１～１４回 発表（スライド） 第１５回 授業のまとめ、振り返り					
〔授業の方法〕 ・談話構成を勉強し、練習します。 ・色々な話題でスピーチを作り、発表します。また、それについての質問にも答えます。 ・発表するために、資料を準備し、話し方の練習をしてから発表します。 ・実際に行ったスピーチや発表を振り返り、どのような伝え方がいいか、みんなで考えます。 ・毎回授業の中で、音読練習もしくは、簡単な時事問題を取り上げ、自分の意見を話す練習をします。					
〔準備学習等の内容〕 授業の時に連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、参加度 20%、スピーチ 30%、発表 30%、					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級の日本語学習がある程度進んでいることが望ましい。					
〔テキスト〕 授業時に必要な資料を配布します。					
〔参考書〕 なし					

科目名	話す（４）Ⅱ				
教員名	吉田 結				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 日本語でのコミュニケーション能力、口頭表現能力、伝えるための発音・話し方を身につける。					
〔到達目標〕 ・今まで勉強した日本語を使って、自分の考え、言いたいことが伝えられるようになる。 ・聞き手のことを考えて、口頭表現が行えるようになる。 ・会話の表現を意識し、円滑なコミュニケーションができるようになる。					
〔授業の計画〕 クラスの様子に合わせて、変わる可能性があります。 第１回 オリエンテーション、スピーチ「自己紹介」 第２・３回 スピーチ（写真）写真を使って、場所・もの・出来事を紹介 第４～６回 スピーチ（比較）日本の国、私の国について 第７～１０回 発表（インタビュー） 第１１～１４回 発表（スライド） 第１５回 授業のまとめ、振り返り					
〔授業の方法〕 ・談話構成を勉強し、練習します。 ・色々な話題でスピーチを作り、発表します。また、それについての質問にも答えます。 ・発表するために、資料を準備し、話し方の練習をしてから発表します。 ・実際に行ったスピーチや発表を振り返り、どのような伝え方がいいか、みんなで考えます。 ・毎回授業の中で、音読練習もしくは、簡単な時事問題を取り上げ、自分の意見を話す練習をします。					
〔準備学習等の内容〕 授業の時に連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、参加度 20%、スピーチ 30%、発表 30%、					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級の日本語学習がある程度進んでいることが望ましい。					
〔テキスト〕 授業時に必要な資料を配布します。					
〔参考書〕 なし					

科目名	書く（４）Ⅰ				
教員名	森川 尚子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 日本語作文の基本的なルールを理解し、アカデミックな文章作成の基礎を学ぶ。					
〔到達目標〕 ・日本語作文の表記や文体などのルールを身につける。 ・作文に必要な文法や表現、段落の構成について理解し、使えるようになる。 ・テーマのある文章の中で、自分の意見をわかりやすく論理的に書けるようになる。 ・マナーに則したメールの書き方ができるようになる。					
〔授業の計画〕 第 1-3 週 表記、文体、書き言葉について 第 4-5 週 正しい構造の文と文のつながりについて 第 6 週 小論文によく使われる表現 第 7 週 段落 第 8-10 週 要約文、説明文、意見文の書き方 第 11 週 事実を示す方法、引用について *「メールの書き方」は、前半に学習する。 第 12 週 問いを立てる。 小論文の構成 第 13 週 期末レポート(小論文)準備 第 14 週 期末レポート(小論文)準備 第 15 週 期末レポート(小論文)発表					
〔授業の方法〕 ・前の週の課題を、ペアやグループで読み合って検討します。 ・新しい項目の説明を聞き、練習問題を解いて確認します。 ・その日の課題で必要なポイントを学習します。					
〔準備学習等の内容〕 次週に学習する予定の練習問題を予習しておくこと。 毎回、作文などの課題があります。次の授業で検討するので必ずやってくること。					
〔成績評価の方法〕 出席 30%、参加度 10%、課題（提出・内容・検討評価）40%、期末レポート 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級レベルの学習段階（N2 受験準備程度）であることが望ましい。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。					
〔参考書〕 特になし。					

科目名	書く（4）Ⅱ				
教員名	森川 尚子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕					
日本語作文の基本的なルールを理解し、アカデミックな文章作成の基礎を学ぶ。					
〔到達目標〕					
・日本語作文の表記や文体などのルールを身につける。					
・作文に必要な文法や表現、段落の構成について理解し、使えるようになる。					
・テーマのある文章の中で、自分の意見をわかりやすく論理的に書けるようになる。					
・日本語のマナーに沿ったメールの書き方ができるようになる。					
〔授業の計画〕					
第1-3週	表記、文体、書き言葉について		第12週	問いを立てる。	
第4-5週	正しい構造の文と文のつながりについて			小論文の構成	
第6週	小論文によく使われる表現		第13週	期末レポート(小論文)準備	
第7週	段落		第14週	期末レポート(小論文)準備	
第8-10週	要約文、説明文、意見文の書き方		第15週	期末レポート(小論文)発表	
第11週	事実を示す方法、引用について				
*「メールの書き方」は、前半に学習する。					
〔授業の方法〕					
・前の週の課題を、ペアやグループで読み合って検討します。					
・新しい項目の説明を聞き、練習問題を解いて確認します。					
・その日の課題で必要なポイントを学習します。					
〔準備学習等の内容〕					
次週に学習する予定の練習問題を予習しておくこと。					
毎回、作文などの課題があります。次の授業で検討するので必ずやってくること。					
〔成績評価の方法〕					
出席 30%、参加度 10%、課題（提出・内容・検討評価）40%、期末レポート 20%					
〔成績評価の基準〕					
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕					
中級レベルの学習段階（N2受験準備程度）であることが望ましい。					
〔テキスト〕					
初回の授業で指示する。					
〔参考書〕					
特になし。					

科目名	漢字・語彙（４）Ⅰ				
教員名	岩佐 靖夫（いわさ やすお）				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ・日本語における漢字の特性(字形、意味、読み、用法)について理解する。 ・漢字が含まれる和語と漢語の語彙について、標語文字である漢字から意味及び用法を類推し、理解する。					
〔到達目標〕 ・漢字の構成を知り、標語文字としての漢字の持つ意味が理解出来る。 ・中上級段階で一般的な漢字及び語彙を知り、使用出来るようになる。 ・場面や文脈にふさわしい漢字及び語彙を理解し、使い分けられる。 ＊日本語能力試験のためのクラスではありません。					
〔授業の計画〕 ＊以下の計画は授業の理解度合に応じて変更されることがあります。 第１回 オリエンテーション、漢字の持つ機能 第２回 漢字の仲間 第３回 反対語の漢字 第４回 漢語の動詞（１） 第５回 漢語の形容詞 第６回 同音の漢字 第７回 形成文字（１） 第８回 漢語の語構成 第 9 回 漢語の動詞（２） 第 10 回 漢字の音訓 第 11 回 同訓の漢字 第 12 回 類義語の漢字 第 13 回 形成文字（２） 第 14 回 総復習 第 15 回 期末テスト					
〔授業の方法〕 ・漢字の持つ機能と、場面や文脈にふさわしいその漢字が含まれる漢語及び和語について総合的に学習します。 ・漢字の特性とその漢字が含まれる語彙としての意味を関連させながら学習します。 ・一般的で使用率の高い漢字及び語彙について学習し、漢字力と語彙力を増強します。					
〔準備学習等の内容〕 上記の授業計画を参照し、次回の授業までに出来る限り予習を行ってることが望ましいです。					
〔成績評価の方法〕 ・出席 20%、課題 10%、授業への参加度 10%、小テスト 20%（２回）、期末テスト 40%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N 2 レベルの漢字力及び語彙力を持っていることが望ましい。					
〔テキスト〕 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智著『INTERMEIDiate KANJI BOOK VOL. 1』（凡人社刊，税込定価¥3,456―） ※テキストの購入は初回の授業で教員が指示します。初回の授業までに購入の必要はありません。					
〔参考書〕 必要な際に授業で紹介します。					

科目名	漢字・語彙（４）Ⅱ				
教員名	岩佐 靖夫（いわさ やすお）				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕					
・日本語における漢字の特性(字形、意味、読み、用法)について理解する。					
・漢字が含まれる和語と漢語の語彙について、標語文字である漢字から意味及び用法を類推し、理解する。					
〔到達目標〕					
・漢字の構成を知り、標語文字としての漢字の持つ意味が理解出来る。					
・中上級段階で一般的な漢字及び語彙を知り、使用出来るようになる。					
・場面や文脈にふさわしい漢字及び語彙を理解し、使い分けられる。					
＊日本語能力試験のためのクラスではありません。					
〔授業の計画〕 ＊以下の計画は授業の理解度合に応じて変更されることがあります。					
第 1 回	オリエンテーション、漢字の持つ機能	第 9 回	漢語の動詞(2)		
第 2 回	漢字の仲間	第 10 回	漢字の音訓		
第 3 回	反対語の漢字	第 11 回	同訓の漢字		
第 4 回	漢語の動詞(1)	第 12 回	類義語の漢字		
第 5 回	漢語の形容詞	第 13 回	形成文字(2)		
第 6 回	同音の漢字	第 14 回	総復習		
第 7 回	形成文字(1)	第 15 回	期末テスト		
第 8 回	漢語の語構成				
〔授業の方法〕					
・漢字の持つ機能と、場面や文脈にふさわしいその漢字が含まれる漢語及び和語について総合的に学習します。					
・漢字の特性とその漢字が含まれる語彙としての意味を関連させながら学習します。					
・一般的で使用率の高い漢字及び語彙について学習し、漢字力と語彙力を増強します。					
〔準備学習等の内容〕					
上記の授業計画を参照し、次回の授業までに出来る限り予習を行ってることが望ましいです。					
〔成績評価の方法〕					
・出席 20%、課題 10%、授業への参加度 10%、小テスト 20%(2回)、期末テスト 40%					
〔成績評価の基準〕					
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕					
日本語能力試験 N 2 レベルの漢字力及び語彙力を持っていることが望ましい。					
〔テキスト〕					
加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智著『INTERMEIDIATE KANJI BOOK VOL. 1』（凡人社刊，税込定価¥3,456－）					
※テキストの購入は初回の授業で教員が指示します。初回の授業までに購入の必要はありません。					
〔参考書〕					
必要な際に授業で紹介します。					

科目名	討論・スピーチ (5) I				
教員名	片山 智子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 人間関係を維持し育むための円滑なコミュニケーションを重視した、口頭表現の方法を学ぶ。					
〔到達目標〕 ・社会的なあるいはやや専門的な話題について、聞き手を考慮した説明や描写を使って発表できる。 ・ディスカッションやディベートなど、改まった場面で意見の交換や討論をするための表現や方策を学び、身につける。 ・相手に対する配慮のある助言や説得ができるようになる。					
〔授業の計画〕 受講生の人数やニーズに合わせて、変更する可能性がある。 第1回 オリエンテーション 第2～4回 スピーチ1 (描写・時間の経過・心情の表現・構成) 第5回～6回 ピンポンディベート (ディベートについて)、即興スピーチ 第7回～10回 ディスカッション、ディベート準備 (問題提起・具体例の提示・同意と反論・司会の進め方・ディベートの準備・資料集め・作戦会議) 第11回 ディベート (討論会) の実施 第12～14回 最終プレゼン 準備から発表まで (聞き手の興味をひくプレゼンとは・テーマ決定・スライド作成・リハーサル) 第15回 振り返り					
〔授業の方法〕 ・ペアワーク・グループワーク ・必要な表現の学習⇒手順の理解⇒実習をおこなう。 ・最終プレゼンは、ビジターに参加してもらい発表後に質疑応答の時間も設ける。					
〔準備学習等の内容〕 ・授業の際に指示する。					
〔成績評価の方法〕 参加度・課題 40%、ディスカッション・ディベート (貢献度と発話) 30%、最終プレゼン 30%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級レベルの学習を終えていること					
〔テキスト〕 授業時に必要な資料を配付する					
〔参考書〕 なし					

科目名	討論・スピーチ (5) II				
教員名	片山 智子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
[テーマ・概要] 人間関係を維持し育むための円滑なコミュニケーションを重視した、口頭表現の方法を学ぶ。					
[到達目標] ・社会的なあるいはやや専門的な話題について、聞き手を考慮した説明や描写を使って発表できる。 ・ディスカッションやディベートなど、改まった場面で意見の交換や討論をするための表現や方策を学び、身につける。 ・相手に対する配慮のある助言や説得ができるようになる。					
[授業の計画] 受講生の人数やニーズに合わせて、変更する可能性がある。 第1回 オリエンテーション 第2～4回 スピーチ1 (描写・時間の経過・心情の表現・構成) 第5回～6回 ピンポンディベート (ディベートについて)、即興スピーチ 第7回～10回 ディスカッション、ディベート準備 (問題提起・具体例の提示・同意と反論・司会の進め方・ディベートの準備:資料集め・作戦会議) 第11回 ディベート (討論会) の実施 第12～14回 最終プレゼン 準備から発表まで (聞き手の興味をひくプレゼンとは・テーマ決定・スライド作成・リハーサル) 第15回 振り返り					
[授業の方法] ・ペアワーク・グループワーク ・必要な表現の学習⇒手順の理解⇒実習をおこなう。 ・最終プレゼンは、ビジターに参加してもらい発表後に質疑応答の時間も設ける。					
[準備学習等の内容] ・授業の際に指示する。					
[成績評価の方法] 参加度・課題 40%、ディスカッション・ディベート (貢献度と発話) 30%、最終プレゼン 30%					
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 中級レベルの学習を終えていること					
[テキスト] 授業時に必要な資料を配付する					
[参考書] なし					

科目名	新聞・評論を読む（５）Ⅰ				
教員名	渡辺 摂				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 新聞のいろいろな記事・論説文、雑誌・新書等の評論文を読む。					
〔到達目標〕 新聞・雑誌・新書等のいろいろな話題の文章が読めるようになる。 ある程度の長さの論説文・評論文を精読し、細かい部分まで理解できるようになる。 語彙や表現を増やす。					
〔授業の計画〕 第１～３回 新聞の社会・文化記事 第４～６回 社説など論説文 第７回 中間試験 第８～１０回 新聞の論説文・天声人語など 第１１～１４回 いろいろな評論文 第１５回 期末試験					
〔授業の方法〕 新聞・雑誌・新書等の評論文を各自読み、大意を取る。その後、グループ活動やクラス全体で細かい部分を確認しながら、内容の理解を深め、意見交換する。また、段落ごとに口頭で内容をまとめる練習もする。漢字・語彙・表現は覚えてくることを宿題にし、翌回クイズを実施。					
〔準備学習等の内容〕 語彙・表現の小テストを行うので、その準備をすること。 必要に応じて、漢字・語彙の予習を課す場合もある。					
〔成績評価の方法〕 出席 20％ 授業参加度 20％ 課題 20％ 中間・期末試験 40％					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 1000 字以上の漢字がわかることが望ましい。					
〔テキスト〕 新聞・雑誌・新書など（毎回配付）。					
〔参考書〕					

科目名	新聞・評論を読む（５）Ⅱ			
教員名	渡辺 摂			
単位数		配当年次		開講時期 後期
〔テーマ・概要〕 新聞のいろいろな記事・論説文、雑誌・新書等の評論文を読む。				
〔到達目標〕 新聞・雑誌・新書等のいろいろな話題の文章が読めるようになる。 ある程度の長さの論説文・評論文を精読し、細かい部分まで理解できるようになる。 語彙や表現を増やす。				
〔授業の計画〕 第１～３回 新聞の社会・文化記事 第４～６回 社説など論説文 第７回 中間試験 第８～１０回 新聞の論説文・天声人語など 第１１～１４回 いろいろな評論文 第１５回 期末試験				
〔授業の方法〕 新聞・雑誌・新書等の評論文を各自読み、大意を取る。その後、グループ活動やクラス全体で細かい部分を確認しながら、内容の理解を深め、意見交換する。また、段落ごとに口頭で内容をまとめる練習もする。漢字・語彙・表現は覚えてくることを宿題にし、翌回クイズを実施。				
〔準備学習等の内容〕 語彙・表現の小テストを行うので、その準備をすること。 必要に応じて、漢字・語彙の予習を課す場合もある。				
〔成績評価の方法〕 出席 20% 授業参加度 20% 課題 20% 中間・期末試験 40%				
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.				
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 1000 字以上の漢字がわかることが望ましい。				
〔テキスト〕 新聞・雑誌・新書など（毎回配付）。				
〔参考書〕				

科目名	アカデミック・ライティング（5）Ⅰ				
教員名	川上 麻理（かわかみ まり）				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 レポート作成の基本的な技術、文章能力養成					
〔到達目標〕 レポート作成の基本的な技術を、具体的な作業を経験しながら学ぶとともに、文章能力を高めることを目的とする。					
〔授業の計画〕 レポートの構成、小論文やレポートで使われる表現、アウトライン・序論・本論・結論・参考文献の書き方、引用・要約・図表の説明の仕方など、レポートを書くために必要な技術を学ぶ。 ＊初回の授業時に、詳しい予定を配布します。					
〔授業の方法〕 この授業では、自分の関心のあるテーマについて、図表などのデータや資料をきちんと説明、分析する形式でレポートを書く。選んだテーマや書いたレポートの内容についてクラスでコメントし合う活動を通して、問題点を発見し、読み手に分かりやすい文章を書く能力や、批判的に読む能力を養う。最終レポートを提出する前に口頭発表を行い、クラスメートや教師からのコメントを参考にレポートを完成させる。話し合いや口頭発表の際には、学生ボランティアの参加を予定。 ＊本当に書きたいテーマを見つけて、日本語でレポートを書くことに挑戦してみてください。					
〔準備学習等の内容〕 書く作業は授業外で行うことが多い。					
〔成績評価の方法〕 出席・授業への参加度 30%、課題の提出・小テスト 20%、レポート提出・口頭発表 50%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級後半レベルの学習を終えていることが求められる。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。					
〔参考書〕 適宜、紹介する。					

科目名	アカデミック・ライティング（５）Ⅱ				
教員名	川上 麻理（かわかみ まり）				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 レポート作成の基本的な技術、文章能力養成					
〔到達目標〕 レポート作成の基本的な技術を、具体的な作業を経験しながら学ぶとともに、文章能力を高めることを目的とする。					
〔授業の計画〕 レポートの構成、小論文やレポートで使われる表現、アウトライン・序論・本論・結論・参考文献の書き方、引用・要約・図表の説明の仕方など、レポートを書くために必要な技術を学ぶ。 ＊初回の授業時に、詳しい予定を配布します。					
〔授業の方法〕 この授業では、自分の関心のあるテーマについて、図表などのデータや資料をきちんと説明、分析する形式でレポートを書く。選んだテーマや書いたレポートの内容についてクラスでコメントし合う活動を通して、問題点を発見し、読み手に分かりやすい文章を書く能力や、批判的に読む能力を養う。最終レポートを提出する前に口頭発表を行い、クラスメートや教師からのコメントを参考にレポートを完成させる。話し合いや口頭発表の際には、学生ボランティアの参加を予定。 ＊本当に書きたいテーマを見つけて、日本語でレポートを書くことに挑戦してみてください。					
〔準備学習等の内容〕 書く作業は授業外で行うことが多い。					
〔成績評価の方法〕 出席・授業への参加度 30%、課題の提出・小テスト 20%、レポート提出・口頭発表 50%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級後半レベルの学習を終えていることが求められる。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。					
〔参考書〕 適宜、紹介する。					

科目名	発音・聴解（５）Ⅰ				
教員名	呉 佳穎				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 聞き手にとって「より聞きやすく、分かりやすい」発音の練習と、大学での講義やニュースなどの独話を聞く練習を行う。					
〔到達目標〕 話し言葉の特徴に慣れ、独話（講義やニュース）の内容を把握し、自分の知識を活性化して聞くことができる。また、シャドーイングの練習を通して日本語の発音がより自然でなめらかになることを目標とする。					
〔授業の計画〕 第１回 ガイダンス、ニュース①、発音練習の準備と説明 第２回 ニュース①/②、発音練習①、アカデミックリスニング①-1 第３回 ニュース②/③、発音練習②、アカデミックリスニング①-2 第４回 ニュース③/④、発音練習③、アカデミックリスニング①-3 第５回 ニュース④/⑤、発音練習④、アカデミックリスニング②-1 第６回 ニュース⑤/⑥、発音練習⑤、アカデミックリスニング②-2 第７回 ニュース⑥/⑦、発音練習⑥、アカデミックリスニング②-3 第８回 アカデミックリスニング復習、グループ発表の説明 第９回 グループ発表の準備 第１０回 ニュース⑦/⑧、発音練習⑦、アカデミックリスニング③-1 第１１回 ニュース⑧/⑨、発音練習⑧、アカデミックリスニング③-2 第１２回 ニュース⑨/⑩、発音練習⑨、アカデミックリスニング③-3 第１３回 ニュース⑩、発音練習⑩、アカデミックリスニング復習 第１４回 グループ発表 第１５回 期末試験					
〔授業の方法〕 1. ニュース：聞き取りとシャドーイングを行う。 2. 発音練習：音声素材を通し、イントネーションと拍感覚を身に付けるための練習を行う。 3. アカデミックリスニング：アカデミックな内容に関する映像を視聴し、内容を把握する。					
〔準備学習等の内容〕 1. 復習として課題のシャドーイングを各自で行うこと。 2. グループ発表について準備すること。					
〔成績評価の方法〕 出席 30%、授業中の課題 20%、グループ発表 20%、期末試験 30%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 N2 以上の日本語能力を持っていることが望ましい。					
〔テキスト〕 授業時に資料を配布					
〔参考書〕 赤木浩文他著『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク、戸田貴子著『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク、東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』スリーエーネットワーク					

科目名	発音・聴解（５）Ⅱ			
教員名	呉 佳穎			
単位数		配当年次		開講時期 後期
〔テーマ・概要〕 聞き手にとって「より聞きやすく、分かりやすい」発音の練習と、大学での講義やニュースなどの独話を聞く練習を行う。				
〔到達目標〕 話し言葉の特徴に慣れ、独話（講義やニュース）の内容を把握し、自分の知識を活性化して聞くことができる。また、シャドーイングの練習を通して日本語の発音がより自然でなめらかになることを目標とする。				
〔授業の計画〕 第１回 ガイダンス、ニュース①、発音練習の準備と説明 第２回 ニュース①/②、発音練習①、アカデミックリスニング①-1 第３回 ニュース②/③、発音練習②、アカデミックリスニング①-2 第４回 ニュース③/④、発音練習③、アカデミックリスニング①-3 第５回 ニュース④/⑤、発音練習④、アカデミックリスニング②-1 第６回 ニュース⑤/⑥、発音練習⑤、アカデミックリスニング②-2 第７回 ニュース⑥/⑦、発音練習⑥、アカデミックリスニング②-3 第８回 アカデミックリスニング復習、グループ発表の説明 第９回 グループ発表の準備 第１０回 ニュース⑦/⑧、発音練習⑦、アカデミックリスニング③-1 第１１回 ニュース⑧/⑨、発音練習⑧、アカデミックリスニング③-2 第１２回 ニュース⑨/⑩、発音練習⑨、アカデミックリスニング③-3 第１３回 ニュース⑩、発音練習⑩、アカデミックリスニング復習 第１４回 グループ発表 第１５回 期末試験				
〔授業の方法〕 1. ニュース：聞き取りとシャドーイングを行う。 2. 発音練習：音声素材を通し、イントネーションと拍感覚を身に付けるための練習を行う。 3. アカデミックリスニング：アカデミックな内容に関する映像を視聴し、内容を把握する。				
〔準備学習等の内容〕 1. 復習として課題のシャドーイングを各自で行うこと。 2. グループ発表について準備すること。				
〔成績評価の方法〕 出席 30%、授業中の課題 20%、グループ発表 20%、期末試験 30%				
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.				
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 N2 以上の日本語能力を持っていることが望ましい。				
〔テキスト〕 授業時に資料を配布				
〔参考書〕 赤木浩文他著『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク、戸田貴子著『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク、東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』スリーエーネットワーク				

科目名	日本文学を読む（５）Ⅰ			
教員名	行田悦子			
単位数		配当年次		開講時期 前期
〔テーマ・概要〕 ・日本語学習者のために書き直したものではなく生の文学作品を読む。 ・日本文学に触れながら、日本語、日本文化・社会への理解を深める。 ・意見交換しながら、多様な解釈を共有することで、異文化、多文化、自己・他者理解をする。 ＊扱う作品は、後期とは異なる。後期からの継続履修者も歓迎する。				
〔到達目標〕 ・辞書を引きながら、きちんと生の文学作品を読み、内容を理解することができる。 ・小説を味わい、その内容について、他の読者と意見を交換しながら、自分の感想が言える。 ・最終的には自ら作品を選び、授業以外でも読書を楽しめるような自律した学習者となる。				
〔授業の計画〕 受講者のレベル・人数により変更することもある。詳細は１回目に説明。 第１回 レベルチェック、コース紹介、読書ノートの書き方 第２～６回 課題１／２ ①読む前に ②内容確認 ③ディスカッション&まとめ 第７回 中間試験 ふりかえり 第８～１３回 私の選んだ短編紹介（一人一編）①発表 ②ディスカッション&まとめ 第１４回 期末試験 第１５回 ふりかえり フィードバック				
〔授業の方法〕 ・講義ではなく、話し合い活動中心のクラス。 ・宿題として作品を読み、疑問点をメモしてくることを前提に進める。 ・読んだ作品について、自分なりの考えをまとめ「私の読書ノート」を作成する。 ・前半は、指定課題小説を読む。 ・後半は、受講生が選んだ短編小説を使って授業をすすめる。 ＊クラスメートとのインターアクションを通して学ぶことを大切に考えている。				
〔準備学習等の内容〕 １）授業に来る前に、辞書を使って作品を読む ２）読書ノート・語彙リストを作成する				
〔成績評価の方法〕 受講者のレベル・構成によって、±５％の調整をすることもある。 出席・参加度 ２５％、課題 １５％、短編ブックレビュー（発表）１０％、中間試験 ２５％、期末試験 ２５％を総合的に判断する。				
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第３９条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.				
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N2 以上の能力があることが望ましい。特に非漢字圏の学生で漢字能力に不安がある者は、受講前に相談すること。				
〔テキスト〕 ハンドアウトを配布				
〔参考書〕 初回に指示。				

科目名	日本文学を読む（５）II				
教員名	行田悦子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ・日本語学習者のために書き直したものではなく生の文学作品を読む。 ・日本文学に触れながら、日本語、日本文化への理解を深める。 ・意見交換しながら、多様な解釈を共有することで、異文化、多文化、自己・他者理解をする。 *扱う作品は、前期とは異なる。前期からの継続履修者も歓迎する。					
〔到達目標〕 ・辞書を引きながら、きちんと生の文学作品を読み、内容を理解することができる。 ・小説を味わい、その内容について、他の読者と意見を交換しながら、自分の感想が言える。 ・最終的には自ら作品を選び、授業以外でも読書を楽しめるような自律した学習者となる。					
〔授業の計画〕 受講者のレベル・人数により変更することもある。詳細は1回目に説明。 第1回 レベルチェック、コース紹介、読書ノートの書き方 第2～6回 課題1/2 ①読む前に ②内容確認 ③ディスカッション&まとめ 第7回 中間試験 ふりかえり 第8～13回 私の選んだ短編紹介（一人一編）①発表 ②ディスカッション&まとめ 第14回 期末試験 第15回 ふりかえり フィードバック					
〔授業の方法〕 ・講義ではなく、討論中心のクラス。 ・宿題として作品を読み、疑問点をメモしてくることを前提に進める。 ・読んだ作品について、自分なりの考えをまとめ「私の読書ノート」を作成する。 ・前半は、指定課題小説を読む。 ・後半は、受講生が選んだ短編小説を使って授業をすすめる。 *クラスメートとのインターアクションを通して学ぶことを大切に考えている。					
〔準備学習等の内容〕 1) 授業に来る前に、辞書を使って作品を読む 2) 読書ノート・語彙リストを作成する					
〔成績評価の方法〕 受講者のレベル・構成によって、±5%の調整をすることもある。 出席・参加度 25%、課題 15%、短編ブックレビュー（発表）10%、中間試験 25%、期末試験 25%を総合的に判断する。					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N2以上の能力があることが望ましい。特に非漢字圏の学生で、漢字能力に不安がある者は、受講前に相談すること。					
〔テキスト〕 ハンドアウトを配布					
〔参考書〕 初回に指示。					

科目名	アカデミック・スキルズA (6) I				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
[テーマ・概要] 大学や大学院で学ぶために必要な、聞く・話すを中心とした日本語能力					
[到達目標] ・大学・大学院の講義を理解して聞くことができる。 ・専門的な内容の入った講演やプレゼンテーションを聞くことができる。 ・聞いた情報を用いて、自分の意見を話すことができる。 ・まとまった話やレポートの内容をプレゼンテーションの形にすることができる。 ・聞き手に伝わりやすい方法を考えて、プレゼンテーションができる。					
[授業の計画] 第1～2回 オリエンテーション、講義の聞き方について 第3～4回 聞いた内容について話す（聴解素材：プレゼンテーション） 第5回 レジュメの書き方 第6～7回 聞いた内容について話す（聴解素材：講演） 第8回 レジュメの書き方のまとめ 第9～11回 ブック・トーク 第12～13回 学期末のプレゼンテーションの準備 第14回 プレゼンテーション 第15回 全体の振り返り ※参加者の状況によって、スケジュールを変更することがあります。					
[授業の方法] ・プレゼンテーション・講演や講義の映像を見て、内容を理解する。また、ほかの人に内容を説明することによって、理解を深める。さらに、それについての意見交換をするような活動を行う。 ・読んだ本について、情報をまとめ、わかりやすく内容を紹介する。 ・今まで書いた・または、今取り組んでいるレポートに沿って、プレゼンテーション作成。その際、どのような情報の提示方法が望ましいかを考える。 ・伝わりやすい話し方を考えて、プレゼンテーションを行う。					
[準備学習等の内容] 適宜、指示する。					
[成績評価の方法] 出席 20%、ブック・トーク 20%、プレゼンテーション 30%、参加度 30%					
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 上級レベルの日本語力を持っていることが望ましい。 アカデミック・スキルズBを同時に履修することが望ましい					
[テキスト] 使用しない。					
[参考書] 授業開講時に指示。					

科目名	アカデミック・スキルズA（6）Ⅱ				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 大学や大学院で学ぶために必要な、聞く・話すを中心とした日本語能力					
〔到達目標〕 ・大学・大学院の講義を理解して聞くことができる。 ・専門的な内容の入った講演やプレゼンテーションを聞くことができる。 ・聞いた情報を用いて、自分の意見を話すことができる。 ・まとまった話やレポートの内容をプレゼンテーションの形にすることができる。 ・聞き手に伝わりやすい方法を考えて、プレゼンテーションができる。					
〔授業の計画〕 第1～2回 オリエンテーション、講義の聞き方について 第3～4回 聞いた内容について話す（聴解素材：プレゼンテーション） 第5回 レジュメの書き方 第6～7回 聞いた内容について話す（聴解素材：講演） 第8回 レジュメの書き方のまとめ 第9～11回 ブック・トーク 第12～13回 学期末のプレゼンテーションの準備 第14回 プレゼンテーション 第15回 全体の振り返り ※参加者の状況によって、スケジュールを変更することがあります。					
〔授業の方法〕 ・プレゼンテーション・講演や講義の映像を見て、内容を理解する。また、ほかの人に内容を説明することによって、理解を深める。さらに、それについての意見交換をするような活動を行う。 ・読んだ本について、情報をまとめ、わかりやすく内容を紹介する。 ・今まで書いた・または、今取り組んでいるレポートに沿って、プレゼンテーション作成。その際、どのような情報の提示方法が望ましいかを考える。 ・伝わりやすい話し方を考えて、プレゼンテーションを行う。					
〔準備学習等の内容〕 適宜、指示する。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、ブック・トーク 20%、プレゼンテーション 30%、参加度 30%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 上級レベルの日本語力を持っていることが望ましい。 アカデミック・スキルズBを同時に履修することが望ましい					
〔テキスト〕 使用しない。					
〔参考書〕 授業開講時に指示。					

科目名	アカデミック・スキルズB (6) I				
教員名	森川 尚子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 大学・大学院で必要なレポート・論文などの読解に必要な能力を高め、書き方のルールに沿って自分の意見を表す。					
〔到達目標〕 1. 新聞コラム、新書など専門的な内容を含んだテーマのある文章が読め、理解できる。 2. 大学・大学院で必要なレポート・論文について、適切な文体・文末表現等を使って自分の主張が書ける。					
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション・自己紹介・読解課題① 第2回～4回 読解課題① 文型・表現練習 レポート STEP1(報告型) 第5回～8回 読解課題② 文型・表現練習 レポート STEP2(ブックレポート) 第9回～12回 読解課題③ 文型・表現練習 レポート STEP3(論文型の期末レポート) 第13回～14回 読解課題④ 文型・表現練習 期末レポート検討 第15回 期末レポート発表会					
〔授業の方法〕 1. 社会問題・時事問題などテーマのある読解の共通課題を読み、内容を理解する。 2. レポート・論文を書くのに必要な文型・表現を学び、問題意識をまとめるスキルを磨く。 3. 読解課題の内容から得た情報や自分の専門について、課題を発見し、レポートを執筆する。					
〔準備学習等の内容〕 毎回、授業ごとに連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 25%、参加度 25%、各レポート 30%、期末レポート 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・N1に合格している、または、N1合格を目指すレベルであること。 ・「作文」などの授業を履修したことがあること。					
〔テキスト〕 必要なものを授業で配布します。					
〔参考書〕 適宜指示します。					

科目名	アカデミック・スキルズB (6) II				
教員名	森川 尚子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 大学・大学院で必要なレポート・論文などの読解に必要な能力を高め、書き方のルールに沿って自分の意見を表す。					
〔到達目標〕 1. 新聞コラム、新書など専門的な内容を含んだテーマのある文章が読め、理解できる。 2. 大学・大学院で必要なレポート・論文について、適切な文体・文末表現等を使って自分の主張が書ける。					
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション・自己紹介・読解課題① 第2回～4回 読解課題① 文型・表現練習 レポート STEP1(報告型) 第5回～8回 読解課題② 文型・表現練習 レポート STEP2(ブックレポート) 第9回～12回 読解課題③ 文型・表現練習 レポート STEP3(論文型の期末レポート) 第13回～14回 読解課題④ 文型・表現練習 期末レポート検討 第15回 期末レポート発表会					
〔授業の方法〕 1. 社会問題・時事問題などテーマのある読解の共通課題を読み、内容を理解する。 2. レポート・論文を書くのに必要な文型・表現を学び、問題意識をまとめるスキルを磨く。 3. 読解課題の内容から得た情報や自分の専門について、課題を発見し、レポートを執筆する。					
〔準備学習等の内容〕 毎回、授業ごとに連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席 25%、参加度 25%、各レポート 30%、期末レポート 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・N1に合格している、または、N1合格を目指すレベルであること。 ・「作文」などの授業を履修したことがあること。					
〔テキスト〕 必要なものを授業で配布します。					
〔参考書〕 適宜指示します。					

科目名	日本語能力試験N1 I				
教員名	川上 麻理 (かわかみ まり)				
単位数		配当年次		開講時期	前期
[テーマ・概要] 日本語能力試験 (JLPT) N1 合格のための対策授業					
[到達目標] ・日本語能力試験N1の問題形式を理解し、その形式に慣れる。 ・N1合格に必要な語彙力・文法力・読解力・聴解力を身につける。					
[授業の計画] *試験の日程に合わせて、授業のスケジュールを変更する場合があります。 第1回 試験形式の確認 第2回～第6回 文字・語彙、文法、読解、聴解の演習 第7回 中間テスト 第8回 中間テストのフィードバック 第9回～第13回 模擬テスト、弱点の補強、試験前の準備 *第一回試験 7月1日(日) 第14回 日本語能力試験の振り返り 第15回 期末テスト					
[授業の方法] ・試験の形式を確認する。文字・語彙、文法、読解、聴解をバランスよく組み込み、問題の型に慣れるよう実践的なスキルを高める。 ・JLPTN1に欠かせない項目の解説と解答のテクニックを学ぶ。 ・模擬テストを実施し、その解答と解説を行う。					
[準備学習等の内容] 授業内だけでなく、授業外でも課題をきちんとこなす努力が求められる。					
[成績評価の方法] 出席 30%、授業への参加度・課題の提出 20%、試験 50%					
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.					
[必要な予備知識/先修科目/関連科目] 日本語能力試験N2に合格していることが望ましい。					
[テキスト] 初回の授業で指示する。					
[参考書] 適宜、紹介する。					

科目名	日本語能力試験N1 II			
教員名	川上 麻理 (かわかみ まり)			
単位数		配当年次		開講時期 後期
〔テーマ・概要〕 日本語能力試験N1 合格のための対策授業				
〔到達目標〕 ・ 日本語能力試験N1 の問題形式を理解し、その形式に慣れる。 ・ N1 合格に必要な語彙力・文法力・読解力・聴解力を身につける。				
〔授業の計画〕＊試験の日程に合わせて、授業のスケジュールを変更する場合があります。 第1回 試験形式の確認 第2回～第6回 文字・語彙、文法、読解、聴解の演習 第7回 中間テスト 第8回 中間テストのフィードバック 第9回～第13回 模擬テスト、弱点の補強、試験前の準備 ＊第二回試験 12月2日(日) 第14回 日本語能力試験の振り返り 第15回 期末テスト				
〔授業の方法〕 ・ 試験の形式を確認する。文字・語彙、文法、読解、聴解をバランスよく組み込み、問題の型に慣れるよう実践的なスキルを高める。 ・ JLPTN1 に欠かせない項目の解説と解答のテクニックを学ぶ。 ・ 模擬テストを実施し、その解答と解説を行う。				
〔準備学習等の内容〕 授業内だけでなく、授業外でも課題をきちんとこなす努力が求められる。				
〔成績評価の方法〕 出席 30%、授業への参加度・課題の提出 20%、試験 50%				
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.				
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験N2に合格していることが望ましい。				
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。				
〔参考書〕 適宜、紹介する。				

科目名	日本語能力試験 N2 I				
教員名	遠藤 樹子 (えんどう しげこ)				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 日本語能力試験 N2 合格のための対策授業					
〔到達目標〕 ・日本語能力試験対策の問題形式を理解し、その形式に慣れる。 ・N2に合格するのに必要な言語知識を身につける。 ・日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるようになる。					
〔授業の計画〕＊試験の日程に合わせて、授業のスケジュールを変更する場合があります。 第1回 ミニ模擬テスト（試験形式、レベルの確認） 第2～8回 文法、文字・語彙、読解、聴解の演習 第9～12回 模擬テスト、弱点の補強、試験前の準備 第13回 日本語能力試験の振り返り 第14回 期末テスト 第15回 期末テストのフィードバック・総まとめ ＊第一回試験 7月1日（日）					
〔授業の方法〕 試験形式を確認し、文法、文字・語彙、読解、聴解それぞれの力を伸ばすとともに、問題の型に慣れるよう繰り返し練習する。					
〔準備学習等の内容〕 宿題の提出や毎回のクイズのための準備が求められる。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題の提出 20%、授業への参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N3 に合格していることが望ましい。					
〔テキスト〕 ハンドアウト					
〔参考書〕 適宜、紹介する。					

科目名	日本語能力試験 N2 II				
教員名	遠藤 樹子 (えんどう しげこ)				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 日本語能力試験 N2 合格のための対策授業					
〔到達目標〕 ・日本語能力試験対策の問題形式を理解し、その形式に慣れる。 ・N2に合格するのに必要な言語知識を身につける。 ・日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるようになる。					
〔授業の計画〕＊試験の日程に合わせて、授業のスケジュールを変更する場合があります。 第1回 ミニ模擬テスト（試験形式、レベルの確認） 第2～8回 文法、文字・語彙、読解、聴解の演習 第9～12回 模擬テスト、弱点の補強、試験前の準備 第13回 日本語能力試験の振り返り 第14回 期末テスト 第15回 期末テストのフィードバック・総まとめ ＊第二回試験 12月2日（日）					
〔授業の方法〕 試験形式を確認し、文法、文字・語彙、読解、聴解それぞれの力を伸ばすとともに、問題の型に慣れるよう繰り返し練習する。					
〔準備学習等の内容〕 宿題の提出や毎回のクイズのための準備が求められる。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題の提出 20%、授業への参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N3 に合格していることが望ましい。					
〔テキスト〕 ハンドアウト					
〔参考書〕 適宜、紹介する。					

科目名	多読 I				
教員名	川上 麻理 (かわかみ まり)				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 本を楽しみながらたくさん読む。					
〔到達目標〕 ・ 本の楽しみを経験し、たくさん読む習慣をつける。 ・ 多く読むことによって、日本語の力をつける。 ・ さまざまな活動を通して、読むことへの関心や意欲を高める。					
〔授業の計画〕 第1回 多読のオリエンテーション、読み物の紹介 第2回～第14回 本を読む、多読関連活動、個別面談 第15回 授業のまとめ * 多読関連活動は、読んだ本の内容や印象に残った表現についてクラスメートと話し合ったり、新しく学んだ表現を使って詩や物語を作ったりする活動です。図書館で本の展示をする「本の帯コンテスト」も行っています。初回の授業で、くわしく説明します。					
〔授業の方法〕 (1) 多読のルールを考えながら、本を選ぶ。 (2) 授業内だけでなく授業外でもできるだけたくさん読む。 (3) 読み終わったら多読記録シートに感想や自分の読み方について考えたことを記入する。 (4) 読んだ本についてクラスメートとさまざまな活動を行う。 (5) 自分の読み方や本選びについて、教師と相談しながら読書を進めていく。					
〔準備学習等の内容〕 授業外でも本を借りて、自主的に読むことをすすめます。					
〔成績評価の方法〕 出席 50%、授業への参加度 30%、課題の提出 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 多読記録シートを書くことを課題とします。					
〔テキスト〕 日本語学習者向けに作られた『にほんごよむよむ文庫』ほか多読図書 * 2018年度前期の授業用に新しい本を用意します。					
〔参考書〕 授業で紹介する本だけでなく、自分で図書館や本屋で探した本を読むこともできます。					

科目名	多読Ⅱ				
教員名	川上 麻理 (かわかみ まり)				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 本を楽しみながらたくさん読む。					
〔到達目標〕 ・本の楽しみを経験し、たくさん読む習慣をつける。 ・多く読むことによって、日本語の力をつける。 ・さまざまな活動を通して、読むことへの関心や意欲を高める。					
〔授業の計画〕 第1回 多読のオリエンテーション、読み物の紹介 第2回～第14回 本を読む、多読関連活動、個別面談 第15回 授業のまとめ *多読関連活動は、読んだ本の内容や印象に残った表現についてクラスメートと話し合ったり、新しく学んだ表現を使って詩や物語を作ったりする活動です。図書館で本の展示をする「本の帯コンテスト」も行っています。初回の授業で、くわしく説明します。					
〔授業の方法〕 (1)多読のルールを考えながら、本を選ぶ。 (2)授業内だけでなく授業外でもできるだけたくさん読む。 (3)読み終わったら多読記録シートに感想や自分の読み方について考えたことを記入する。 (4)読んだ本についてクラスメートとさまざまな活動を行う。 (5)自分の読み方や本選びについて、教師と相談しながら読書を進めていく。					
〔準備学習等の内容〕 授業外でも本を借りて、自主的に読むことをすすめます。					
〔成績評価の方法〕 出席 50%、授業への参加度 30%、課題の提出 20%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 多読記録シートを書くことを課題とします。					
〔テキスト〕 日本語学習者向けに作られた『にほんごよむよむ文庫』ほか多読図書 *2018年度前期の授業用に新しい本を用意します。					
〔参考書〕 授業で紹介する本だけでなく、自分で図書館や本屋で探した本を読むこともできます。					

科目名	ロールプレイ I				
教員名	川上 麻理 (かわかみ まり)				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ソーシャルスキル、日本語・日本文化の知識、状況に応じた話し方、想像力・発想力					
〔到達目標〕 ・クラスメートと協力して演劇作品を作ることを通して、お互いの考えや立場を理解できるようになる。 ・台本を細かく分析することにより、日本語や日本文化をさらに深く知る。 ・日本語の音声を意識し、状況に応じた話し方ができるようになる。 ・シアターゲームやインプロを通して、想像力や発想力を身につける。					
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 作品のテーマについての話し合い、シナリオを使った表現活動、シアターゲーム、インプロ 第4回～第13回 台本作成、上演のための練習、演劇作品宣伝活動 第14回 演劇発表リハーサル 第15回 演劇作品発表、振り返り *学生ボランティアの参加を予定しています。					
〔授業の方法〕 ・自由な発想で人前で表現できるようになるために、シアターゲームやインプロを行う。 ・クラスメートと協力して、作品のテーマを考え、台本を作成する。 ・台本をもとにセリフを覚え、身体を動かして演じる練習をする。 ・覚えたセリフをスムーズに言えるように繰り返し練習する。 ・衣装、小道具、音響、宣伝について話し合い、準備を行う。 ・完成した作品を観客の前で発表する。					
〔準備学習等の内容〕 必要なときに連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席・授業への参加度 50%、課題の提出 20%、発表 30%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 学生同士が積極的にアイデアを出し合い、協力して作品を完成させることが大切です。自分の得意な面を、作品作りに活かしてください。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示します。					
〔参考書〕 なし					

科目名	ロールプレイⅡ				
教員名	川上 麻理（かわかみ まり）				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ソーシャルスキル、日本語・日本文化の知識、状況に応じた話し方、想像力・発想力					
〔到達目標〕 ・クラスメートと協力して演劇作品を作ることを通して、お互いの考えや立場を理解できるようになる。 ・台本を細かく分析することにより、日本語や日本文化をさらに深く知る。 ・日本語の音声を意識し、状況に応じた話し方ができるようになる。 ・シアターゲームやインプロを通して、想像力や発想力を身につける。					
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 作品のテーマについての話し合い、シナリオを使った表現活動、シアターゲーム、インプロ 第4回～第13回 台本作成、上演のための練習、演劇作品宣伝活動 第14回 演劇発表リハーサル 第15回 演劇作品発表、振り返り ＊学生ボランティアの参加を予定しています。					
〔授業の方法〕 ・自由な発想で人前で表現できるようになるために、シアターゲームやインプロを行う。 ・クラスメートと協力して、作品のテーマを考え、台本を作成する。 ・台本をもとにセリフを覚え、身体を動かして演じる練習をする。 ・覚えたセリフをスムーズに言えるように繰り返し練習する。 ・衣装、小道具、音響、宣伝について話し合い、準備を行う。 ・完成した作品を観客の前で発表する。					
〔準備学習等の内容〕 必要なときに連絡します。					
〔成績評価の方法〕 出席・授業への参加度 50%、課題の提出 20%、発表 30%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 学生同士が積極的にアイデアを出し合い、協力して作品を完成させることが大切です。 自分の得意な面を、作品作りに生かしてください。					
〔テキスト〕 初回の授業で指示します。					
〔参考書〕 なし					

科目名	ビジネス日本語 I				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ビジネス場面や就職活動等のビジネスに関連の場面でのコミュニケーションのための日本語					
〔到達目標〕 ・ビジネスに必要な場面で、日本語で感じのいいコミュニケーションができる。 ・就職活動に関する書類の作成等を通して自己分析を行い、それを口頭で適切に表現できる。 ・Eメールや文書が適切な形で書ける。 ・ビジネスに関するトピックについて調べ、それについて情報や意見をまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
〔授業の計画〕 参加者とビジネス日本語との関連を調査した上で内容を変更する可能性がある。 第1回 将来の希望について話し合う 第2～4回 日本での就職活動について知る 第5～7回 自分を知る・表現する 第8～9回 ケースについて話し合う 第10～12回 プロジェクト・ワーク「日本の社会人にインタビュー」 第13回 テスト 第14～15回 プロジェクト・ワーク「日本の社会人にインタビュー」 スケジュールについても、プロジェクト・ワークでのゲストの都合などにより変更の可能性がある。					
〔授業の方法〕 ・就職活動をする際などに必要な書類の作成を練習し、その過程で自分の適性や仕事観などについての分析を行う。 ・課題のやり取りなどを通し、Eメールや文書の書き方を練習する。 ・自己分析したことをもとに、自分アピールの練習を行う。自己紹介や面接での受け答えの場面で話す練習を行い、適切で感じのいい話し方を練習する。 ・仕事に関することを話し合う中で、ふさわしい話し方で話せるよう練習する。 ・実際に日本の企業で働く人にインタビューをし、結果をまとめ、発表する。 ・BJTの問題や就職活動に関する教材を用いて、仕事に関する語彙や表現を学ぶ。					
〔準備学習等の内容〕 適宜、指示する。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、課題や小テスト 50%、試験 20%、参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 JLPTN2程度の日本語力を持っていることが望ましい。					
〔テキスト〕 『留学生のためのビジネス日本語シリーズ 一人財一』より、必要箇所を適宜配布。					
〔参考書〕 適宜、指示する。					

科目名	ビジネス日本語Ⅱ				
教員名	世良 時子				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ビジネス場面や就職活動等のビジネスに関連の場面でのコミュニケーションのための日本語					
〔到達目標〕 ・ビジネスに必要な場面で、日本語で感じのいいコミュニケーションができる。 ・就職活動に関する書類の作成等を通して自己分析を行い、それを口頭で適切に表現できる。 ・Eメールや文書が適切な形で書ける。 ・ビジネスに関するトピックについて調べ、それについて情報や意見をまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
〔授業の計画〕 参加者とビジネス日本語との関連を調査した上で内容を変更する可能性がある。 第1回 将来の希望について話し合う 第2～4回 日本での就職活動について知る 第5～7回 自分を知る・表現する 第8～9回 ケースについて話し合う 第10～12回 プロジェクト・ワーク「日本の社会人にインタビュー」 第13回 テスト 第14～15回 プロジェクト・ワーク「日本の社会人にインタビュー」 スケジュールについても、プロジェクト・ワークでのゲストの都合などにより変更の可能性がある。					
〔授業の方法〕 ・就職活動をする際などに必要な書類の作成を練習し、その過程で自分の適性や仕事観などについての分析を行う。 ・課題のやり取りなどを通し、Eメールや文書の書き方を練習する。 ・自己分析したことをもとに、自分アピールの練習を行う。自己紹介や面接での受け答えの場面で話す練習を行い、適切で感じのいい話し方を練習する。 ・仕事に関することを話し合う中で、ふさわしい話し方で話せるよう練習する。 ・実際に日本の企業で働く人にインタビューをし、結果をまとめ、発表する。 ・BJTの問題や就職活動に関する教材を用いて、仕事に関する語彙や表現を学ぶ。					
〔準備学習等の内容〕 適宜、指示する。					
〔成績評価の方法〕 出席 20%、課題や小テスト 50%、試験 20%、参加度 10%					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 JLPTN2程度の日本語力を持っていることが望ましい。					
〔テキスト〕 授業の初回で指示する。					
〔参考書〕 適宜、指示する。					

科目名	日本事情 I				
教員名	桂 雄二郎				
単位数		配当年次		開講時期	前期
〔テーマ・概要〕 ・現代日本の諸事情を多角的に捉え、理解を深める。 ・日本人の関心が高い話題や課題を政治・経済・社会・自然などから広く取り上げる。 ・自国の現状との比較を交えながら発表し理解を深める。					
〔到達目標〕 ・中級以上の学生を対象に、日本の現状を多角的に学び、幅広い知識と理解を持つ。 ・テーマに沿って自ら調べたことを発表すると同時に、話し合いに積極的に参加する。 ・毎回、授業後の感想や意見文を次週に提出し、書く力も身につける。					
〔授業の計画〕 ・第1回 授業ガイダンス、授業内容及びテーマ一覧解説、評価等のオリエンテーション。 ・第2回 成蹊小学校見学。(日本の私立小学校の実情)⇒感想文提出開始。 ・第3回～テーマに沿って分担発表・質疑・話し合い。⇒毎回感想文提出。 ・第15回 試験。					
〔授業の方法〕 ・前週に設定されたテーマに従い、各担当者が調べたものを発表する。 ・関連する資料を読み合わせたり、話し合ったりする。 ・次週に前回の授業の感想文を各自 800 字程度にまとめて提出する。					
〔準備学習等の内容〕 ・前週に発表されたテーマに沿って、各自でその準備を行う。 ・授業後の感想文は毎回、次週の授業開始時に提出する。					
〔成績評価の方法〕 ・出席率 20%、 授業参加度 30%、 小論文レポート提出 30%、 試験 20%。					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・日本語能力試験N2 程度以上を有することが望ましい。 ・テレビニュースや新聞記事・雑誌などの情報収集を進んで行うことが望ましい。また、関連科目の授業で発表したものは流用しないこと。					
〔テキスト〕 ・なし。⇒必要に応じて資料配布					
〔参考書〕 ・適宜指示する。					

科目名	日本事情 II				
教員名	桂 雄二郎				
単位数		配当年次		開講時期	後期
〔テーマ・概要〕 ・現代日本の諸事情を多角的に捉え、理解を深める。 ・日本人の関心が高い話題や課題を政治・経済・社会・自然などから広く取り上げる。 ・自国の現状との比較を交えながら発表し理解を深める。					
〔到達目標〕 ・中級以上の学生を対象に、日本の現状を多角的に学び、幅広い知識と理解を持つ。 ・テーマに沿って自ら調べたことを発表すると同時に、話し合いに積極的に参加する。 ・毎回、授業後の感想や意見文を次週に提出し、書く力も身につける。					
〔授業の計画〕 ・第1回 授業ガイダンス、授業内容及びテーマ一覧解説、評価等のオリエンテーション。 ・第2回 成蹊小学校見学。(日本の私立小学校の実情)⇒感想文提出開始。 ・第3回～テーマに沿って分担発表・質疑・話し合い。⇒毎回感想文提出。 ・第15回 試験。					
〔授業の方法〕 ・前週に設定されたテーマに従い、各担当者が調べたものを発表する。 ・関連する資料を読み合わせたり、話し合ったりする。 ・次週に前回の授業の感想文を各自 800 字程度にまとめて提出する。					
〔準備学習等の内容〕 ・前週に発表されたテーマに沿って、各自でその準備を行う。 ・授業後の感想文は毎回、次週の授業開始時に提出する。					
〔成績評価の方法〕 ・出席率 20%、 授業参加度 30%、 小論文レポート提出 30%、 試験 20%。					
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.					
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・日本語能力試験N2 程度以上を有することが望ましい。 ・テレビニュースや新聞記事・雑誌などの情報収集を進んで行うことが望ましい。また、関連科目の授業で発表したものは流用しないこと。					
〔テキスト〕 ・なし。⇒必要に応じて資料配布					
〔参考書〕 ・適宜指示する。					